



TITLE:

新譯日本地學論[文]集(七):ライマン-日本油田調査第二年報(三)

AUTHOR(S):

CITATION:

新譯日本地學論[文]集(七):ライマン-日本油田調査第二年報(三). 地球
1930, 14(6): 446-454

ISSUE DATE:

1930-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183843>

RIGHT:

し、墓地は集合せず、各自の所有地の畑の一隅に墓地だけを建てる。此の様式は、伊賀以外の地方にも見られるが、此の場合埋葬地だけを別に共有してゐるか、此の點調査が進んでゐない。これは土地の制約のほかに、家が遠く離れて散在してゐる爲と思ふが、それ以外歴史的、土俗的に理由の存するものに思はれる。

以上私は我が居住地たる伊賀附近の墓地に對

して淺薄な觀察と考察とを致しましたが、他の地域や歴史的乃至土俗的方面に關しては御指導をお願ひします。

(附記) 以上の如き墓地の形式は餘程珍らしいものと聞く。

愛知縣八名郡下川村(豐橋市附近)に此の形式があるとの事で照會したが回答がない。恐らく他の地方にもあるものと思ふ。その地理的及びそのほかの理由につき御指導を賜りたい。(完)

新譯 日本地學論文集 (七)

ライマン——日本油田調査第二年報 (三)

經濟事情 利益が増す様にする事は主として油井に付き三百圓以内の平均費用で鑿井することと係つて居る。(費用を減ずるには一般に油井を三百呎以内にするとか或は採光又は其の他の鎖事を改良して、以て今よりもつと急速に且つ安價に仕事するにある。)又は鑿井を全然不成功に終らせる場合を少なくすること、又は三十

五箇月間一日二ガロン半(六升四合)よりも多い平均産額を獲ること、又は精油に際して曩に推計した費用よりも少なくすること、又は石油の値を三圓三十錢よりも高くで賣ることに係つてゐる。我等の希ふ所は、我等の調査と地圖とによつて確かに含油層の露頭と其の位置を表示し其の爲めに全く不成功な油井の數を減ずること

油井の深度が不必要に大きくならぬこと、平均産油量が出来ただけ多くなることである。かかる状況の下に在つては著しく經濟的な經營を採れば採油事業は法外でない利益を擧げ得ると信ずる。

然しずつと進んだ大改良に附隨して來る費目は最初の資本の消費である。若し資本が例へば年六歩の比較的低い利率で借りることが出来たとしても一割二分の利益を擧げる爲めに必要な危険を引受ける主因を胚胎してゐる。而して利得を希望して一會社の重役に株主が委託した金子は多くの點で利子を得んとする貸金に同じである。同じ見地は採油事業は勿論他の産業に對しても適用されるだらう。而して此の國に於ける産業の進歩に對する最大の障礙は金利の高いことである。

然らば、なぜ金かねがそんなに高いか而して其をより廉くさせる順序はどうであるかを考察するのは重要なことである。金利は勿論一部分、他の物品の價格の様に、需要に比較した供給に關

係する。猶ほ此の事が金をしてこゝでは高くならしめる唯一の原因である様に最初は想像させるかも知れない。然し要求されるよりも甚だ多量の供給があること、金利が途方もなく高率であつてさへ、蓄財を其の隠された場所から引き出すには不充分であることは爭はれぬことである、蓄財は多くの場合に一つ一つで大であり又合同すれば巨大の金に上るだらう。之が理由は「金利の高率は不安の一名に過ぎない」と云ふ周知の事實の特異の意義として明かに認むべきである。世人は自然に、所有金を貸付けて之を失ふ危険を冒すより寧ろ遊ばして置かうとする。貸さなければ思ひ設けぬ利益が實に大きい。それで日本に居る誰れでもが、過去數年（恐く猶ほ今でも過去に於けるよりもより大きな）經驗によつて安心して投資するには極めて不適當であつたと公言して居る。傳へられる所では、かかる貸附金は、新しい破産法の助を有つた詐僞手段によるか又は借主の經營熟練の大きな不足によつてか、殆んど一列に失はれて了つた。

かゝる惡弊を矯正するには之が考究を隠したり避けたりすることに依つてか或は金利の高率に反對する法律を制定するかに依て望まらるべきではない。此の種の法律は人をして金を貸す様に餘儀させない、而して若し法定率が低過ぎれば金は遊ばされてゐるか或は貸附金の他の危險に加へて法律の所罰を受ける危險を償ふに足りる高率で貸されることになる、たゞ貸すことに對して充分な理由がある安全が自らあつた場合にのみ金は法定率で貸されるであらう。次の如き破産法を支持するには或る論議があつてもよさうなものである。この破産法たるや損害を蒙る債權者からの無慈悲の督促に對して惡氣のない債務者を保護し、又借方の故意でない過誤或は不運から起る危險を少くとも考慮する重荷を貸方に負はせ、且つ政府をして、直接の利益を望めない破産債務者の所罰に要する費用を其の所要の限りまでは節減させるものである。併し借方の詐僞行為を防ぐ爲めに全力を盡すことは政府に取つては殆んど不可能であること、

かゝる詐僞を防ぐことは盜賊其他による財産の喪失を防ぐと同じ必要が實際にあることは許容されねばならぬ。それ故裁判所が最大の純潔を保つてあるべきこと、詐僞に對したり、他の仕方で財産の不正な讓渡或は破滅に對したりする法律は出來るだけ賢明な形質を有すべきであること並に詐僞行為を見つける方法が極度に完全でなければならぬ事は本邦の石油事業及び他の産業の利益に此上もなき密接の重要さを有する。

此等の方法中最も價值があつて且つ最も有効な方法は金錢出納を正當な仕方で記帳することである、而して既に始められた最も近代式の簿記法の傳來は急速には進められることは出來ない。古い極端に不完全な記帳法では詐僞は明瞭に見付かりもしないし、又詐僞の告訴を満足に反證することも出來なかつた、金を委託された個人の人格上の高潔を信頼する以外は凡てが不確實であつた。かゝる狀況に於ては高潔或は誠實といふことの其の思想は必然に比較的漠とし

て居たに違ひなく、誠實である矜誇或は誠實を缺く羞恥の意識は比較的鈍かつたに違ひない、何となれば兩事實共誰れにもはつきりと知ることが出來ず、且つ爲めに完全によく基礎を置かれた名聲即ち他人の尊敬といふことがない許りでなく人間の自重及び人格に對する名聲の重要な反映を缺いてゐなければならぬからである。猶且つ會計の古いだらしない方法の下では、誠實といふことから全然離れて、當事者自身の心中に事業の状態に關し、又關係事業中の各の特種事項の損益に關して比較的不分明な點があつたに違ひない、それ故、たとへ特別な天才者ばかりの障礙に勝つたかも知れないが、業務に關する熟達と思慮とがあつたとは思へない。さて、詐僞が行はれた場合に其を見付けることを容易ならしめ以て詐僞を防ぐに大に與つて力ある優秀な手段は盛に業務に關する良き人格を作る許りでなく、猶ほよき業務の習慣、思慮分別及び熟達を體得して、以て多方向に資本をより多く安全に向けることに資する所が大きい。

若し法律と裁判とが此の外に全く満足すべきものであつたならば、石油事業又は他の企業が容易に有利になるべきことは疑を容れない。

政府の獎勵 實に私の觀察する限りでは國民は既に、其の成功に關してどちらかと云へばたゞ餘りに慾目を有つて、熱心に石油及び他の鑛山企業に従はんとしてゐる様である。それ故政府が國民に實例を示すか或は資本を貸下ぐべしと往々論ぜられる様に政府が甚だしい低利で資本を國民に貸すことによつて、かゝる企業に従事する様に國民が獎勵される必要を少しも見ない。尤も政府は多くの私人よりもずつと低い金利の條件で資本を獲ることが出来るのは事實である何となれば政府の信用は良好であり、借つた物を返すべき永續性の意途に關する信用が公衆の中にあり、又それ故貸さねば遊金としてあるか或はずつと無責任な團體に寄託されてゐるに違ひない蓄財の一部を國民は喜んで政府に貸すからである。

併しながら産業は同様な危険の事業を國民が

行ふことを獎勵する代りに上述の様な特に都合のよい環境の下で企劃さるべきものであるといふ事實は局外者に執つては同じ範圍で争ふべき凡ての努力を寧ろ阻ませる様にする、それが爲めに好都合の事業者は、國內競争に關する限りでは、實際に專業權を有つことになり、而して其の事業者が私人の團體であつたとすると、人情から云へば事業者が一般社會に究極の損失をかけることで其の利潤の大部を成すことになる。

そんな特別に有利な條件を有つて居る政府へ又は政府からの恵まれた借手」の工業及び商業事項に對する競争が事業家にならんと欲するあらゆる他の者の防害にならんとしても、何故政府は自ら鑛業家、製造家或は商人になるのを出来る丈け避けるべきかの強い理由がある。企業が政府の俸給を喰ふ役人によつて處理されるならば、たとへ正直といふことが彼等の意途であつても、饑餓に對する恐怖の貴い刺激が缺けて居つて、彼等をして、自己の資力で從業してゐる私的團體の様に、極度に其の事業の取扱ひ

に注意深くあり且つ最大の熟練を得んとするに熱心であらしめない。彼等は私的従事者がする様に事業の特別の一方面を學ぶことに其の全生涯を献げない、そしてたゞ生涯の献身を眞に要する業務に就いて一時的に執務するのみであるその爲めにかゝる政府事業はよし、あからさまの不正直ではなくとも、比較的暢氣な仕方での執務され勝ちである。政府のゆつたりした貯へからの金は自由すぎる位に費されるか又は機會についても資力についても共に甚しい浪費である所の「一文吝みの百知らず」の行爲に屢導いてゆく下手な節約で費され易い。かくの如きは常に西洋諸國に於ける經驗であつた、而して日本では事情が特に都合よくなつてゐて全く違つた結果になると想像する理由は一つもない。

新しい又は不完全に知られて居る産業に關して公衆に教へる手段としてでも用ひられる資本の例外に廉いといふ事は大に其の指教を無効にするだらう、又政府の仕事では勞力の經費が私的の仕事に於けるよりも高くなり易いといふ事

實を考へると殊にさうである。作業の主要な目的は出来る限りの利益を得て之を完成するにある、而して勿論廉い資本と高い勞力に適する方法が高い資本と廉い勞力とで要求される方法とは全然違つてゐる。例へば英國或はアメリカでも有利な作業即ち産業の方法は、資本が大に高くて勞力が大に廉い日本には全く適してゐないかも知れぬ。此等の西洋諸國に在つては勞働を省く結果になる所の廉い資本の支出が屢得策であるならんも、日本では同額の資本の價が省ける勞働の價よりもずつと多くなるかも知れぬ。同じ様に廉い資本は事業構成の永久と永續とを欲することを増すが、高い資本は度々の手入れか一新の孰れかに應じて有利に向はせる。それで眞に熟達の作業は先づ最初に資本と勞力の比較的の經費を考慮することを要求し、且つ適應はしてゐるものゝ、他の國の情況の中にある様な方法を盲目的に遣り通すことを許しはせぬ。勿論政府によつて借りられ又は政府から借りた廉い資本及び政府事業の寧ろ高い勞力といふ違

常の條件の下で行はれるべき方法と一般公衆の普通の條件の下で行はれるべき方法との間には同じ様な差違があるだらう。それ故かゝる恵まれた企業に於ける實行は常に他の者に對する見本として直接に役立つことは出来なかつた。

もし國民が其の政府を通じて一私人が貸すことが出来るよりもつと廣く資本を借りることが出来るならば、政府によつて凡ての産業が實行されるのは全體としてまだ利益であるかも知れぬ。然し最も富んだ政府の富みも臣民の富みに比すれば物の數にも足らない、前に言つた種々の點で資本の安全が増されるにしても、政府の信用では企業に喜んで投資される高の十分の一をも借りること出来ないだらう。其の安全に變化を生じさせるのは、必要である様なそんな龐大な金高を政府の代理者が正當に使用することを保證するよりもずつと易いだらう、而して増される安全其者が、現に政府さへに向つてあるよりも一般に公衆に向つて、資本をより廉くさせるだらう。

それ故次の事を主張するのは予の職務に無關係なことと考へ得ない、即ち日本の石油業、鑛山業並に他の産業を進歩させる最も有効な方法は第一に法律、裁判所及び學校を改善することである、次に運搬費の輕減によつて多少直接に凡ての公衆の利益になる様な道路並に河海の航運の公衆の改善を實施することである、而して猶且つ油井及び鑛山に關しては地質調査に依つて出来るだけ其の不確實性を減ずることである。此等の施設は一國の政府の爲政の範圍内に正當に含まれて居ないとは言へぬ。何となれば此等の施設は全國民の利益の爲めであり且つ政府は如何なる私的團體が處理することが出来るよりも便宜に之を處理することが出来る故である。同時に此等施設の内の或るものは明かに國家の内外に對する政治的福利に甚だ顯著なものである、而かも最近十年間の進歩が甚だ顯著であつたことは認めざるを得ない。かゝる種類の改善及び公共事業に關しては政府が指揮することの出来る知識と活動と手段との運用に俟つべき廣

い餘地が確にある様である。問題が極端に重要であるので、既刊の開拓使の報告書並に一八七七年八月三十日及び一八七八年四月一日に經費書類と共に提出した未刊の報告書中に屢其の重要な點の一、二に説き及んだことを諒知された。

助手の訓練 地圖の上に地質を明かに入れるに際して、助手が測量及び製圖に多くの時間を費した、場所に充分馴れてゐることは大なる利益を與へるものである、何となれば特別な努力を要せずして助手は無數の委曲をおぼえてゐるからである、こんな委曲は、助手の仕事の時に助力せんとする予の如きものに取つては一時記憶してゐるのも難かしく且つ忘れ易い事柄である。然し助手は自ら此の種の研究を行なつてゆくべき學識が大に進歩しつゝあるけれども、猶彼等の經驗は全く單獨で之を行ふことが出来るに到つて居ない。それにも拘らず彼等を訓練するには、予が彼等の爲めに引續いて地質研究を遂行するよりも寧ろ彼等自身で出来る様な部分は彼

等をして行はしむるのが最も良い、それで彼等は眞に役に立つから、實は今でさへ予の時間を省くことが恐らく多いことである。彼等が既に地形の仕事を行つて居る様に獨立して地圖上の地質の仕事をする實力を必ず速かに獲得することとは予の信じて疑はぬ所である。

調査經費の簿記 一八七七年八月三十日及一八七八年四月一日の予の報告中に充分記載された原簿を用ひて單式簿記法によつて調査の會計を記帳せんとして注意深い留意をしたことを記さねばならない。昨年は安達氏が予の指圖に従つて其の仕事の大部を行つた、然し同氏は今冬開拓使で時間をふさがられた故、方法に對する彼の知識と彼の時間の關係上、目的を達する責に任ずる様になることが殆んど出来なかつた。然し二日間彼は、各調査班の經費の小臺帳に他の助手が正當に書き上げたものを監査した、それ故、各助手が實際に簿記の正しい或る方法を知るべきであるのは實に重要であると思はれる又我々の簡單な様式は現在の彼等の目的には充

分足り且つ後來もつと完全な形式の複式法を彼等が比較的易く會得するに役立つことを予は堅く信じた。其の他に就ては我等の會計主任なる前田本方氏が溫順に且つ賢く所謂日本の舊式の簿記法を全然捨て、予の教へに従つて忍耐強く且つ熱心に記帳した、遂に帳簿は出来ただけ満足な形になり、同氏は將來それ以上の困難も遲滯も多分ない程に此の方式に熟練した。

道路測圖の整理 此の仕事の外、予は冬季の内に旅行中予の作つた、つな道路測圖を小縮尺に作圖するのみならず、此の報告及び予が夏秋の交に訪づれた各鑛山に關する特別報告を書き上げることを期した。幸に道路測圖は歸京以前に大抵縮圖された、併し十二月及び一月中の勤務時間の短い時期の間には既に記述した他の勤務の爲めに残りの部分に就いて完成された所は少なかつた、此の時には特に十二人の活氣のある熱心な助手が彼等の仕事中に起つて來る困難を解くことに就て屢指導を乞うて居た。此等の勤務の正當な履行のみでも一人の時間をかなり

一杯に取るのに殆んど充分であつた、之に加ふるに其の人の全時間と留意を集注するを要する程自ら大切である仕事をせんとするのは難かしいことである、貴公の御者に六頭の氣の立つた馬を御すると同時に狭い路を重い荷をつけた手押一輪車を押して行くことを貴公が期待してもかまはぬ。(未完)

譯者曰ふ、ライマンの報告をたど々と直譯してゆくと、地質學の立場に立つて經濟を論じて行く必要は今も明治十年

伊太利ところぐ (十二)

瀧川 規 一

【ボムベイの死都】 往來に人影稀な日曜日の晝間は倫敦、殊にシタイと呼ばれる舊倫敦は死人の町に行くが如しとは誰しも口にする處である。店と云ふ店は悉く閉つて居る。餘程勝手を知つた者でなければ飲食店を見出し得ない。辨當持參でなければ餓死するであらうとさへ云つ

代と變らず寧ろもつとよけいにあると云ふことが感じられる地質調査書が純學術的になるのは尤もであると同時に段々に公けの出版物の中に應用地質の材料を記述することが減じてゆくのは國家事業としての地質調査の一方の價値をそぐものである。又他方では經濟學者が地質調査書を理解出來ぬ様に地質學が勝手に進んで行つたものならば、地質學家がライマンの様に地質調査の結果を基礎として經濟を大に論じて以て邦家を益すべきであると信ずる。こゝに偶感を附して識者の一顧を乞ふ次第である。

た米人があつた。綠樹を見ず人影を見ざる大都會の物淋しさは曜日の雜沓に對照して殊更に著しく感じられる。これは生きた都會の話であるが、ボムベイの小都會は事實紀元七九年に死んで居るのである。同年の十一月の二十三日に東の空に高く聳えてゐるヴェスヴィアス山は突然